令和5年度第1回向日市総合教育会議 会議録

日 時：令和6年3月19日（火）
午後3時から午後4時12分まで

場 所：向日市役所 第10会議室

出席者：安田市長、山本教育長、松本教育長職務代理者、流石教育委員、
中野教育委員、畠山教育委員

事務局：清水教育部長、野田ふるさと創生推進部長、長谷川教育部副部長兼
生涯学習課長、柴田ふるさと創生推進部副部長兼広聴協働課長、松
石ふるさと創生推進部副部長兼企画広報課長、山本教育総務課長、
紺野学校教育課長、上西学校教育課担当課長、八木教育総務課副課
長兼係長、岩尾生涯学習課副係長

傍聴者：1名

市長：

本日傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。

事務局：

1名いらっしゃいます。

市長：

傍聴される方が1名おられるとのことでした。

この会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第5項及
び向日市総合教育会議運営要綱第3条第1項の規定により、原則公開となっ
ておりますことから、本日の会議は公開とすることで御承認いただきたいと
思いますが、これについてご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

市長：

それでは、ご異議がないということで会議は公開で進めることといたします。傍聴希望者にお入りいただきてください。

本日は、第1回総合教育会議を開催しましたところ、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は後ほど話がありますけれども、留守家庭児童会の現状と今後について考えていただきたいと思います。

保育所については、今年も国基準で待機児童ゼロということになりましたけれども、なかなか厳しい状況が続いており、子供たちの数の増加に対して対応することが大変重要である一方で、しばらくすると子供の数がピークを迎えて減少になっていくことが予想されますが、施設を考えた場合に、今後それにどう対応していくか、どのように運営していくかということが非常に厳しい状況であります。

フルタイムで夫婦共に働く方が増加し、暮らし方も多様化している関係で、留守家庭児童会の入会数が以前に増して非常に増えてきている状況の中、保育所と同様、今後留守家庭児童会の運営をどのようにしていくか、いろいろと想定をしながら進めていかなければなりませんので、皆様のご意見とお考えをお聞かせいただければありがたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願ひします。

それでは、議題に入らせていただきたいと思います。

議題1「留守家庭児童会の今後について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：

それでは、本日の議題でございます「留守家庭児童会の今後について」ご説明申し上げます。

まず、本市の留守家庭児童会の入会要件のこれまでからの経過につきましては、平成27年度からは4年生までであった入会要件を見直し、5・6年生を含めた全学年の児童を受け入れてきたところです。

しかしながら、年々、入会児童数が増加しており、令和6年度の入会申請を受け付けた際には予想を上回る入会率及び児童数の増加となり、今後の対応を検討せざるを得ない状況となりましたので、このたび議題とさせていただくことといたしました。

それでは、資料に沿って状況をご説明させていただきます。1ページ目の

表1から順次、ご覧ください。

表1は、令和6年度4月当初の入会児童数について前年度と比較したものです。

本市の児童会は各小学校の敷地内に市が設置したものが6か所あり、本年の、令和6年度の入会児童数は本日現在で919人、昨年度の811人と比較いたしまして108人増加する予定でございます。

なお、民間の児童会は2か所で入会児童数計78名であります。さらに令和6年度からは3か所目のクララという事業所が本格的に稼働する予定です。クララの受入児童数については現在確認中ではありますが、最大でも10名程度と聞いております。

増減比較では、1年生の入会は昨年度と比べて2人減と少し減少していますが、ほかの学年は増加しており、特に2年生の増加が39人と多くなっております。

次に、表2-1をご覧ください。

各小学校の児童数の推移を、過去から令和11年度の予測値まで掲載しています。

下の折れ線グラフの児童数は、市内全児童数の推移を表しております。お分かりになりやすいように、令和6年度のところで赤線を引いて示しております。児童数は、平成27年度からこれまではほぼ3,000人から3,100人あたりで推移しておりましたが、令和10年度頃からは3,000人を割り込み減少が続く見込みとなっております。

次に、表2-2をご覧ください。

こちらは、各小学校の留守家庭児童会の平成27年度以降から現在までの児童数の推移を掲載しており、折れ線グラフは児童会の全児童数の推移を表しております。先ほどの表2-1では、学校の児童数は3,000人程度でほぼ一定でしたが、ご覧のとおり、児童会の児童数は増加を続けております。

次に、表3-1ですが、こちらは各児童会の入会率の推移を掲載しております。

表の合計の欄をご覧ください。

本市が5・6年生も含めた全学年の受入れを開始した平成27年度からは、全体の入会率は17%でした。それ以降、毎年、前年度比でほぼ1%程度上昇し、さらに令和3年度は22%、令和4年度は24%、そして令和5年度は26%と連続して前年度比2%の上昇となり、令和6年度では4%の

上昇となりました。

下のグラフでも、近年の急激な入会率の上昇を確認することができます。

次に、表3-2ですが、こちらは表3-1と同じ入会率の推移の表ですが、折れ線グラフについては各児童会の入会率の推移を掲載しております。

グラフを御覧いただきますと、全体的に上昇傾向ではありますが、直近では第4児童会の上昇が著しい状況でございます。

次に、表3-3児童会における各学年の児童数の推移であります。各年を通じて低学年の入会者数が高くなっておりまして、特に令和6年度は2年生の入会者数が1年生のときよりも増加していることから、1年生よりも2年生の入会者が多いという状況となっております。

次に、表4-1ですが、これは児童会の今後の児童数などを推計したものをご覧いただけますが、令和7年度以降の児童会の児童数は、入会率をどの程度に設定するかによって数字が大きく変わってまいります。このたび、グラフの下部に記載しておりますとおり、毎年3%ずつ入会率が上昇すると仮定した推移となっております。ただし、入会率がそれほど伸びないと考えられる5・6年生につきましては、令和7年度の入会率で固定して推計しております。

表をご覧ください。

右端の総数につきましては、令和9年度の1,052人まで増加が続くという予想になっております。

続いて、下の折れ線グラフをご覧ください。

児童会ごとでは、オレンジ色の第2児童会、黄色の第4児童会は令和8年あたりをピークに、グレーの第3児童会は令和10年度をピークに児童数の増加が続く見込みとなっております。さらに、青色の第1児童会、水色の第5児童会、緑色の第6児童会につきましては、令和11年度までは継続的に増加する見込みとなっており、各児童会の今後の児童数の推移が現在よりも高い状況が続くことが予想されます。

次に、表4-2をご覧ください。

こちらは、一つの提案としてつくらせていただいた表でございます。

表4-1と同じ条件で、令和7年度から5・6年生の入会を停止した場合の児童数の推移を推計させていただきました。表4-1と比較すると分かりやすいかと思いますが、総数といたしましては、多少上下はありますが、令和11年度まで令和6年度程度のレベルの児童数をキープすることができると考えております。

折れ線グラフをご覧ください。

児童会ごとでは、オレンジ色の第2児童会、黄色の第4児童会は令和6年度が児童数のピークとなり、グレーの第3児童会、水色の第5児童会は令和11年度まではほぼ横ばい、青色の第1児童会及び緑色の第6児童会は増加するものの増加率が緩やかになっていることがお分かりになるかと存じます。

次の最後の表は、児童会の児童一人あたりの専用区画面積の推移について、今後の見込みをお示したものです。

上の表は、現在の入会要件を維持した場合の推移表です。

下の表は、令和7年度から5・6年生の入会を停止した場合の推移表です。

なお、本市の「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」には、「専用区画の面積は、児童1人につきおおむね1.65平方メートル以上」としていることから、分かりやすいように、おおむね1.65平方メートルの基準を下回る箇所を黄色に色づけしております。

令和6年度においては、第1児童会のみが黄色になっており、上の表のとおり現在のまま5・6年生の受入れを続けると、第1児童会は黄色い状態が継続します。第3児童会は令和9年度から、第4児童会は令和7、8年度が、さらに第5児童会は令和7年度から黄色となりまして、専用区画面積の不足が生じる見込みであります。なお、第6児童会におきましては、令和5年度に育成室を増設し令和6年度から運用が始まることから、不足は解消することになります。

一方、下の表、令和7年度から5・6年生の入会を停止した場合、第1児童会については引き続き不足が継続するものの、第3及び第4児童会では不足が解消するとともに、第5児童会についても令和11年度までは不足が生じない見込みとなり、第1児童会を除いては当面の間、おおむね1.65平方メートルの専用面積を確保できる見込みとなっております。

なお、第1児童会につきましては、当面、児童数の増加が継続することから、また別の対応が必要と考えておりますが、ほかの児童会につきましては、一人で留守番をすることが難しい低学年の児童の入会を優先し5・6年生の入会を停止することにより、この児童が急増する期間に対応することができるのではないかと考えております。

もちろん、今後も児童数の注視を続けまして、状況に応じた必要な対応を早めに行っていく必要があると認識しております。

以上、説明を終わらせていただきます。ご協議のほうよろしくお願い申し

上げます。

市長：

ただいま、事務局から「留守家庭児童会の今後について」の説明がありましたが、資料についての質問やご意見等はございますか。

委員：

説明いただいた中で、5・6年生の増加というところですが、私の子供が児童会に通っていた頃は、4年生になると急激に減り5・6年生は1人あるいは2人というところでしたが、特に最近になって急激に増えていることに対する要因としてはどういうことが考えられるのでしょうか。

事務局：

それぞれ、いろいろとご事情はあるかと思いますが、児童会の現場のほうからは、低学年の頃から一緒に児童会に通っていた友達とそのまま一緒に通いたいということが多いことを聞いております。

ですので、児童会の友達とそのまま一緒に通い続けたけれども、1人児童が退会すると続けてそのまま何人か退会することもしばしばあると聞いております。

委員：

5・6年生への対応の中で少し検討するというのも考えの一つですが、学校の今あるほかの施設や空いてる土地の活用など、スペースの問題について検討されたと思いますので、その辺りをお聞かせください。

事務局：

第3、第4、第5児童会などは、小体育室の利用などを可能な状態にしております。ただ、学校の校舎内となりますと制約もあります。更に、教室自体が今、不足気味であり弾力的な運用を検討している学校も多いことから、可能な限りは検討させていただきましたが難しい状況でございます。

委員：

ちょうど自分の子供のときに5・6年生まで受け入れが延長になって、非常に助かりました。4年生まで受け入れ5・6年生が中止になった場合、一

人で留守番ができるかという、1年生2年生に比べたらもちろんできるのですが、親としてはかなり不安があるのは間違いないことであり、やはり数時間ではなく4～5時間の留守番になってしまいその間少し不安に思いますので、何とか受け入れてもらえないかと思えます。

先ほど、友達と一緒にいるのでそのまま児童会に入っているという話でしたが、児童会をやめてから児童会に行っていない近所のお友達と仲よくできるかといったら、意外と仲よくできないということもありました。

また、5・6年生を受け入れられなくなった場合に、ほかの習い事や塾に行くなどもよくあるとは思いますが、結局そこに行くまでの道も一人になり困る方はいらっしゃると思うので対応してもらえないかと思っております。

事務局：

話が少し違うかもしれませんが、留守家庭児童会の対応といたしましては、配慮が必要な児童、例えば支援学校に通学をされている方などについては検討が必要だと思っております。平成26年度までは4年生までが入会対象でしたが、そのときもそういったケースに関しては個別に対応をしておりました。

委員：

ほかの委員が言われたことにも関わるのですが、今まで5・6年生まで行くことができていたものが行けなくなるというところに関しては心配だということと、向日市としてはこれまで全部受け入れてきたのはかなり特徴だったと思いますので、ある意味ではそれとは逆の方向性、そして全国的に国としても少子化対策とか子供たちや親御さんのことを考えて進めようとしている中では、残念ながら反対の方向に向かってしまうように感じてはおります。

今後子供がいずれは減少に転じると思われていますが、親の立場で考えると現状はいろいろと困っていることがたくさんある中で、向日市としてこういう方向で進めていこうという方向性自体に少し残念な思いがあります。

いろいろと事情があるとは思いますが、5・6年生に関しての今回の提案についてどうかということももちろんですが、4年生以下の子供たちについても手厚い対応ができれば、向日市というものがこんなに子育てに優しい素晴らしい市だということを全国により多く発信していくことができるので

はないかと思いました。

市長：

まず、今回この問題が出てきたのは物理的にも受け入れられないということです。

定員をオーバーしてしまい一人当たりの面積も全く確保できないというのも非常に問題だと思います。

従来から本市の入会基準は比較的緩く、本来でありますと、今保育所で行っているような点数をつけて入会基準に満たない人が入らないようにすべきですが、それは行っておらず申請に従って全員受け入れているような状況です。

今、就労時間を設定していますけれども、例えば、9時から1時まで働いている方がいらっしゃるすると、それでも時間は達成できます。つまり、子供たちが帰ってくる時間に家にいたとしても、時間的なことだけで受け入れられる条件を達成しています。

本来ですと、留守家庭児童会が開いている時間に仕事などでご自宅にいられないので子供たちは留守家庭児童会に行ってもらおうという明確な基準がなければいけないと思うし、そうすると実は減るとは思うのです。実際にその時間が必要な子供たちだけに限るためにはどうするかというと、厳格に運用してその時間に働いている証明をもらってそれ以外の人を受け入れないという方法と、もう一つは、保育所のように点数をつけて点数が上のほうの人から入ってもらおうという方法もあります。

第1留守家庭児童会については増築をしようという考えもあります。第2留守家庭児童会、第4留守家庭児童会、第6留守家庭児童会は増築しましたけれども、第3留守家庭児童会については増築しようと思ってもできるスペースもないという中で、どうしていくかという課題を皆さんに考えていただくということです。

普通、児童会は学校から離れたところにありますが、向日市の場合は学校内に留守家庭児童会がありすごく保護者の方にとっては安心感を得られていると思います。だから、そういうことも含めて入っている人もあり、入会基準は設けていますが今までほとんどの希望者が入ってきました。そういう状況で今、本当に受け入れられなくなってきた、今後どうしていくかを今日は考えていただくということです。

おっしゃっていることはよく分かり、私たちも一生懸命やりたいというこ

とはあるのですが、やりたいけれどもできなくなってしまった現状をどう打開していくかということですので、その辺りについてご意見をいただけるとありがたいと思います。

いずれにしても、4月に受け入れている児童はみなさんそのまま入れます。

先ほどのグラフからいくとどんどん増えていく子供たちをどうしていくべきか、今までの現状でいくと夏休みにたくさん入ってこられるので、全然受け入れられない状況の中でどうしていくかが大きな課題であります。

委員：

学校の空いている教室とかを利用させてもらうことは、何らかのハードルなどがあるのでしょうか。

市長：

実際には夏休みは使っているのですが、学校施設を利用すること自体あまりよくないですし、ただ何よりも一番ここで課題なのは、今、指導員が全く足りないことです。

募集もしているし時給もそれほど悪くないのですが、全く指導員が集まらない状況です。

場所も足りないし指導員も足りないし、議会でも2階に建てたらどうかという話もありましたが、2階建てにすると指導員を分散させることになって、今の指導員の体制では全然足りません。

そういうところもありまして、やむなくシルバー人材センターに頼んでいますが、動く量が生半可ではない小学生をシルバー人材センターの方が支援するのは極めて難しい状況です。

夏休みは教室を特に使わせていただいているのですが、基本的に学校施設を使うこと自体も一つの課題ではありますし、それに加えて指導員が足りないし、新しい教室に指導員を配置することができない状況になっているというのも現状です。

委員：

留守家庭児童会の児童数推移を見ていきますと、5・6年生がだんだん増えてきているのは理解できます。発達も含めて子供たちが健全にその時期を過ごすということを考えると、もちろん5年、6年がそれから外れるという

ことではないですが、保育所や幼稚園から小学校に入ってすぐの1年生や低学年の子供は丁寧なかかわりのできる会の利用は高学年より一層必要だと思います。だんだん学年があがると保護者の方も塾や習い事などいろいろな対応の仕方を考えていらっしゃるのではないかと思います。

ほかの市のホームページなどを見させていただいても、この1年、2年、3年ぐらいまでは非常に熱心な対応を報告されている自治体がたくさんありました。もちろん理想的には6年生までということでしょうが、今市長がお話になりました向日市の現状もありますし、その辺りをしっかりと考えていただければと思います。

例えば、向日市は子育て支援をいろいろとやっっているわけで、ファミサポで預かっていただく方の研修会・講習会を非常に熱心にされています。向日市にある子育て支援をもう少し周知するとか、あるいはそれをもう少し発展させて活用していくとか、この高学年の子供たちに対しても何かそこで活用できるものがあれば、苦渋の選択としてのこの非常事態を切り抜けることができるのではないのでしょうか。向日市の子育て支援策の周知と活用の案内などをして来年、再来年というところで急場をしのぐという方法も一つあります。

何もしないというのは一番駄目だと考えますので、子どもの成長発達を大切に思い、検討をしていただけたらと思います。

委員：

先ほど市長がおっしゃられた基準が緩いというところもあると思います。例えば5・6年生の受け入れを停止するにしても、ほかの委員がおっしゃったように、恐らく夜7時、8時まで誰もいないという家庭もあります。その家庭の中でも、本当に必要なところがどこかという基準もあると思うので、そういうところの個別申請については受け入れる余地は必要かと思いません。

また、昼間しか働いておらず夕方にはいらっしゃる家庭は、5・6年生からは受け入れないというように段階的に基準を変えていくというのも一つの方法ではないかと思いましたが、このデータをいろいろとつくっていただいている中で、令和7年以降毎年入会率が3%アップというところは、恐らく現実的かもしれないですが、例えばこれが、今現状であればどうなのか、1%アップであればどうなのかという辺りはどの程度検討されたかということをおし説明いただければと思います。

事務局：

現状のままいった場合、2%上がった場合、3%上がった場合、4%上がった場合で検討を行ったところです。4%となりますと入会率が70%とかなり上がりすぎてしまいますので、現実的ではないと考えました。今現在4%上がっている以上、2%で見込むということも少し苦しいかと思いましたが、今回は中間の3%で出させていただきます。

なお、2%上がった場合でも、結果的にはそれほど専用面積の不足は変わらないような状況でございました。

市長：

実は今年がマックスかもしれないので来年もこの程度で推移するかもしれないですが、今年度までのことを考えるとずっと一定で増えてきていますので、なかなか予想は難しいです。

ただ、実はこの間、こういう状況も鑑みて民間の児童クラブも誘致をしてやってもらっており、今既に満員の状態でさらに放課後等デイサービスもあるような中でこういうことがありますので、ニーズというのは非常に大きいと思っております。

例えば、民間の児童クラブは塾との間ぐらいの感じで勉強をしたりすることもあり、一人で通わせるのは不安だけれども送り迎えはついているのでという方もいらっしゃるかと思いますし、果たして今の保護者の皆さんの本来のニーズがどこにあるのか、また、私たちが公としてどこまでを提供しなければいけないのかということもあります。

やはり、この中で単に5・6年の受け入れをやめるということではなくて、それに加えて、例えば入会基準のしっかりとした見直しなどを行っていかなければならないと思います。

実際に今担当者が、児童千人の一人一人の入会基準を事細かに精査するというのも難しいです。そういうことを考えますと、今日、明日から全部のことをできるわけではなくて、例えば、保育所みたいに点数制にしたほうが非常に分かりやすいのでいいと思うのですが、教育委員会はもともとそういうことをしていないので、そこに行くまでには時間がかかるということもあります。

それと、年齢要件なども点数化したら分かりやすくなりますし、親の働いている時間も点数化できたら本当は分かりやすいのですが、保育所の点数化に至るまでにも非常に時間がかかり、1年や2年でできた点数化ではありま

せんので、将来的にそういうふうにしていくべきかとも思っています。

一方で、担当の教育委員会としては、恐らく将来子供が減っていくからここだけ乗り越えれば何とかかなるという気持ちもあると思います。教育委員会もなるべく受け入れてあげたいという気持ちはもちろんあると思うのですが、その中で、やはり子供たちを安全に預からなければいけないし、指導員がいないし面積も狭くなるし、そういった中で本当に児童会としての役割を果たせるのかという思いもあります。その中で、いろいろな方策を考えていると理解はしています。

教育長：

市長が言っていたように、私どもも受け入れられるのであれば、全部受け入れたいと思っています。ただ、指導員の方に都合のいいところだけ働いてもらうなど条件を変えていろいろな工夫をしながら毎月毎月募集をしてもなかなか来ていただけないのが現状です。その中で、子供たちの安心・安全を最優先に考えて教育委員会でもかなり議論をしました。

学習指導要領の中でも、5・6年生がどれぐらいの生活力をつければいいのかという内容が示されていますが、その辺りも見ながら5・6年生については少し控えていただく中で、低学年の子供たちの安心・安全をまず第一に考えるべきではないかということでご提案をさせていただいています。ご意見をいただいたように、我々も特別に支援が必要な子供たちについては配慮していきたいと思います。

これらの条件の中で留守家庭児童会が安定的に続けられるにはどうしたらいいかという議論をした結果、このような提案をさせていただいているところです。

委員：

市長が先ほどおっしゃったように点数制ということも、これまでの制度との兼ね合いでどうかというところだと思いますので、そもそも留守家庭児童会をどうするかというところの在り方について、一回、根本的に考えてみようというの必要ではないかと思います。

方向性は少し違いますが、そう考えてみたときに、そもそもこの留守家庭児童会はこういう制度であったから基準がこれぐらいであって、親が働いて子供が一人になってしまうので始まっているという歴史的な経緯があるところですが、年々その状況が変わってきているということです。

市長がおっしゃたようにその基準が緩いところに入ってきている方もいるかもしれないですが、それも含めて留守家庭児童会の在り方の変容にもなるのではと思います。何%上がるか分からないというのはそのとおりで、もしかするともっと上がるかもしれないですし、我々保護者側や社会の方でも児童会というものをどう考えるかが特に年々変わってきているのではないかとこのところがあるので、これまでこうだったからということでそれに対応する形だけでは十分ではないかもしれないと思っています。特に最近の変化というものをもう少し積極的に捉えて、今の親御さんはどう考えているのか、というところからスタートしてみると、また少し違う見え方がしてくるのではないかと思います。

先ほどから話が上がっていますように、向日市は子育て支援が非常に手厚いというイメージを私自身は持っています。そこに合わせて何かメッセージとか政策的にもっと打ち出していただけ、そういう方向で検討していただけるとうれしいというところがあります。

場所の問題と人の問題が両方絡んでおり、人に関して府内では好条件で採用されていることは存じ上げていますけれども、これまでの指導員というもののイメージや位置づけを変えてみようかということで外に打ち出してみるようなことを検討していただけるとうれしいです。現状では指導する方がいないというのはよく分かっていますが、それでも来てもらえる向日市の施策をアピールできるような方向で検討していただけるとうれしいと思います。

市長：

今は留守家庭児童会が学校の中にあるというのが基本ですが、本来はそこを逸脱すると割と道はあると思います。しかしながら、これまで向日市は学校の中にあるという状況できたので、今から児童会を学校の外につくってそちらに行ってくださいというのも無理です。

今までの施策の中において、第2・第4・第6留守家庭児童会を増築するなどいろいろと工夫をしてやってきましたけれども、かなり激しい伸び率であり厳しい状況になったというのが現状です。

私もこの間、今の若い人はどこで募集を見ているのかなど募集の仕方をいろいろと考えておりますが、この仕事は体力が要りますし、ぜひ、皆様の具体的なアイデアを教えてくださいたいと思います。

一方で、働く時間が昼過ぎからなので、朝に別の仕事をして昼からできるのでいいという人もいらっしゃいますし、私は学生アルバイトには最適だと

思っていますがなかなか来てもらえないです。いずれにしても、一番私たちが大切に思っていることは安全についてです。

子供達は割と激しく動いてけがをしたりするので、そういうところをしっかりと見ていかなければならないというのはあります。

正直言うと、今は場所がない、人員がいない、児童数は増えてくるという状況であり、今の提案は、このようにするしか安全に子供たちを預かれないのではないかという、そういう策で出しています。

一人の居場所をつくっても誰かがいないといけませんし、子供の居場所づくりは難しいです。

委員：

まだその段階までではないですが、理想を言うと、学校地域本部などが上手に学校とつながって面倒をみてくれるなどうまくリンクしてできれば一番いいと思います。

市長：

実は地域と学校でも人材がいらっしゃらないです。昔ですと、60歳を過ぎたら退職されて地域の子供たちのためにとという形がありましたが、今は働き続けておられる方が多くなりなかなか難しいです。どうするべきなのかという悩みは向日市だけではなく全体的にこのような状況にあると思います。

委員：

保護者会が以前はかなり活動を活発に行っていましたけれど、今、保護者会の活動自体のほとんどが動いておらず、恐らくその辺りも省力化の流れになってきて全体で増加している一因になっている印象を持っています。

市長：

昔は月曜日から土曜日まで仕事をして、日曜日に保護者会の行事をやらなければならなかったのですが、今、保護者会はそういう行事がなくなり入れやすくなったということはあります。

留守家庭児童会の今後についてたくさんご意見をいただきましたが、ただ単にやめるということではなく、例えば、指導員の確保の方策であるとか、今後の第1留守家庭児童会を増設するであるとか、指導員が確保できたら教室も使ってやるということなどいろいろなことを目標にして並行で進めなが

らですが、今、現状で危険な状況は回避するために、残念ながら夏休みなどについて5・6年生の受け入れを停止することがやむを得ない状況という形でいいでしょうか。やはり子供たちの命、安全を確保することが大切なので、一刻も早く解消できるようにまずは指導員の確保をやっていきたいと思っております。

委員：

これは来年度からになりますか。

市長：

まずは途中入会と夏休みです。

いろいろな方策を並行して考えていく中で、当面は危険回避のためには仕方がないということよろしいですか。

では、第1回総合教育会議を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。